

HAGIHARA REPORT

2024

創業以来、変わらぬ使命で 人々の暮らしを豊かに

人も企業も生きているのではなく、生かされています。
企業にはそれぞれこの世にあって
果たすべき使命・役割があるのです。
これからも萩原工業は、フラットヤーン技術が
生み出す製品や関連機械を通じて、
世の中の人々がより安全で快適に、
そして効率的に経済活動が出来るように努力いたします。
人と製品が活性し続ける企業、それが萩原工業です。

CONTENTS



SECTION 1 / **プロフィール**
萩原工業のあゆみ — 3
トップメッセージ — 5



SECTION 2 / **戦略**
「深化」と「探索」 — 7 具現化力 — 13
技術力 — 9 製品・サービス一覧 — 15
開拓力 — 11



SECTION 3 / **サステナビリティ**
萩原工業とサステナビリティ — 17
環境への取り組み — 19
社会への取り組み — 21



SECTION 4 / **ガバナンス・経営基盤**
ガバナンスへの取り組み — 23
中期経営計画 — 25
成長戦略 — 27



SECTION 5 / **企業情報**
5カ年財務・非財務サマリー — 29
国内・海外拠点一覧 — 33
株式情報・会社概要 — 34

編集方針

HAGIHARA REPORT 2024は、ステークホルダーの皆様へ、萩原工業グループの事業やCSR活動についてわかりやすく報告することを目的として作成しました。

本レポートを通じて萩原工業グループを一層ご理解いただき、ステークホルダーの皆様と企業価値向上に向けた対話の機会を創出していきたいと考えています。

<対象期間>

2024年10月期
(2023年11月1日～2024年10月31日)
※一部、上記期間外の情報も含んでいます。

<対象組織>

萩原工業株式会社
及び子会社

<発行時期>

2025年1月

HAGIHARA
REPORT
2024

<表紙について>

右上がりに伸びるフラットヤーン。その技術の持つ可能性から新たな価値を編み出し、世界に貢献できる製品を届けていきたいという想いを表現しています。

<将来の見通し等に関する記述>

本レポートには、萩原工業グループの過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通し等の将来予測が含まれていません。この将来予測は、記述した時点で入手した情報に基づいた判断であり、今後のさまざまな要因によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。

世の中に役立ってきた歴史、未来への新たな可能性



1892 萩原商店創業

1962

二代目 萩原賦一が、花ござタテ糸用PEモノフィラメント製造で萩原工業創業

1964

フラットヤーン開発
インライン湯浴延伸方式

1970

米麦袋用フラットヤーン製造
東京営業所開設

1974

ブルーシート・糸・織・ラミ
業界初一貫生産工場
タービー工場竣工

1980

土のう袋無人加工機完成
タービーシート省人化加工機完成

1981

マシニングセンター完備
プラント製造工場竣工

1994

紙スリッター上市

1995

インドネシア子会社創業

2000

大証一部株式上市

2001

東証一部株式上市

2003

中国青島子会社竣工
SAP-R/3始動
損益システム充実化

2004

上海設計事務所開設

2010

第三者割当
公募増資実施

2012

インドネシア子会社
第二工場竣工

2013

創立50周年
第三者割当公募増資実施

2014

東証一部株式上市

2022

東証プライム市場移行
パラグアイ子会社設立

事業の礎

1962-1979

1965

フラットヤーン生産大革命
熱板延伸方式特許取得
ワインダー TS36鳥居鐵工所と共同開発

1966

フラットヤーン製造装置初輸出
台湾新生製麻社

1976

インドネシア国営肥料会社製袋
一貫大型プラント輸出

1981-84

高性能フラットヤーン製造関連機械
の連続的開発上市、輸出拡大

1989

カーペット基布一貫
里庄工場竣工

新規事業の創出

1980-1999

1996

かようアイランド(現 賀陽
工場)竣工
バルチックF 上市

2005

機械事業国際化
上海子会社設立

2007

エンジニアリング事業
新工場・新事務所竣工

グローバル化への対応

2000-2021

2009

賀陽工場一貫工場再構築

2018

第8回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞
経済産業大臣賞受賞
バルチック子会社設立
海外代理店EPC社買収
東洋平成ポリマー株式会社買収

2019

タイ子会社設立

SDGs達成に向けて

2022-

2023

中国青島子会社清算
テキサス子会社設立
笠岡工場新設
金属箔用スリッターに
関する技術等を譲受

2024

日本ファブワールド株式
会社を吸収合併



企業スピリット

おもしろい
直ぐやってみよう

「おもしろい!一緒にすぐやってみよう」という、創業者 二代目萩原賦一の口癖。創業から60年を超えた今でも、会社全体のスピリットとして脈々と活き、社員全体の口癖になっています。

経営理念

萩原工業はフラットヤーン技術を
大事にしながら常に革新し続け、
世のため人のために役立つ会社であろう。

社是

- 一、萩原工業は業界をリードする
- 一、萩原工業は信用に生命をかける
- 一、萩原工業は恩義を忘れない
- 一、萩原工業の社員は創意を尚び、自己の責任を果たすことに喜びを持つ

コーポレートスローガン

ハミダセ、アミダセ。

世の中に既存しているものが常識だという固定概念は持たず、岡山というフィールドをハミダして世界に貢献できる製品を届けたい、そのために新たな素材・技術・工法・製品をアミダしていきたい。そんな想いをコーポレートスローガンである「ハミダセ、アミダセ。」に込めています。



持続可能な成長と サーキュラーエコノミーへの 対応強化

2024年は、笠岡工場の本格稼働によるシートの加工工程強化と高付加価値化、シートの機能強化を活かしたブランドの再構築とその販路開拓、サーキュラーエコノミーへの対応強化などに、粛々と取り組んでまいりました。

2022年12月に策定・発表した新中期経営計画は残すところ1年。「ハミダセ、アミダセ。」というコーポレートスローガンに象徴される萩原工業の文化にも支えられ、明るく、前向きに達成を目指しているところです。

[2024年の振り返りと、持続可能な成長に向けて]

種々の課題を乗り越えつつ シートの可能性の広がりを確信

2023年に完成した笠岡工場、パラグアイ工場、2025年6月に完成予定のアメリカ工場(テキサス州)という3つの工場が本格稼働します。ところが、中期経営計画を策定した2年前の想定以上に、国内外の物価や人件費の高騰、アメリカの株高、為替変動など、外部環境の大きな変化に伴い、さまざまな課題が生じました。それを否定することなく、ひとつひとつ乗り越えながら、攻めの姿勢を貫いた1年でした。たとえば、笠岡工場では国内で唯一の幅5mまで対応が可能な印刷機を導入したことで、ポリエチレンシートやメッシュシートへの印刷が可能になりました。当初は従来の印刷機でもまかなえる2m幅のシートへの印刷依頼が主でしたが、次第に5m幅の印刷依頼が増加し、現在は月々の売上予定を大幅に上回っています。また、コロナ禍の際に海上物流が混乱したことなどから設けた海外の製造拠点は、当社の大きな柱のひとつに育ちつつあります。さらに、アメリカではトランプ大統領が関税の大幅引き上げを表明しましたが、テキサス州の工場で生産することでそのリ

スクを回避できると考えています。もちろん、グローバル化によるデメリットやリスクはありますが、ものづくりは使ってくれる地で行わなくては市場を広げることはできません。今後も現地生産を進めていく考えです。

シートの機能強化も行いました。そのひとつが遮熱シートです。世界一の遮熱シートを目指し、徹底して遮熱率を向上させたのですが、そうするとどうしても厚みが増し、重たくなります。そのため従来通りにホームセンターなどで販売するのではなく、軽さよりも遮熱効果を重視するお客様にお届けする特別なルートをつくる必要があります。そこで、販売方法をプロモーションできる会社に依頼し、営業担当者にその方法を学ばせています。このように、用途を絞り、販路を開拓し、販売する場所を変えることで、ブランドの再構築を図っているところです。ほかにも、工場や作業場を明るいままで間仕切りしたいという声に応じて開発した透明シートは、災害で被災した建物の屋根にかけることで保険会社の調査時間を短縮できるなど、掘り下げるとシートの可能性はまだまだ広がっていくと確信しています。

萩原工業の持続可能な成長にとって、「社員の成長と幸福を、伸ばす。」ことは不可欠。社員が楽しく働ける環境整備に向

TOP MESSAGE

代表取締役社長

浅野 和志 Kazushi ASANO

けた心理的安全性への取り組みや、海外出張の促進は2024年10月期に引き続き実施しています。また2025年10月期は、「自ら考え、楽しい仕事に変えよう」という社長方針の下、効率化やAI導入など、社員一人ひとりが仕事を楽しみ、やりがいを感じられるよう自分自身で考え実行することを奨励しました。また、子育て世代を支援するために看護休暇を有給化したり、男性の育児休暇取得を後押ししたり。男性の場合は「会社が忙しいのに申し訳ない」という思いがことの外強いようで、3カ月の取得を勧めたものの、結局2カ月が最長となっています。さらに、2024年9月には、社員の財産形成のために導入したストックオプションの行使期間がスタート。社員の一人ひとりが株価を上げるために何をすればいいのかを考えるきっかけになればと期待しています。

[サーキュラーエコノミーへの対応強化]

多方面の企業と共同し さまざまな視点で取り組む

中期経営計画の成長戦略のテーマのひとつとして、資源を効率的に循環させて持続可能な社会をつくるとともに、経済的な成長を目指すサーキュラーエコノミーを掲げています。しかし、それを確立したからといって利益が生まれるという話ではなく、プラスチックメーカーとして実現しなくては生き残れない、つまり義務だと私たちは考えています。

過去何度となく環境問題はブームとなりましたが、いずれもリサイクル品は高いから買わないという消費者が大半でした。しかし、環境問題を身近に感じる人が増加した現在は、価格よりも、環境に優しいストーリーを重視する人が増えていることから、微かながら活路が見えてきました。

萩原工業ではこれまで、使用済みのブルーシートを回収して新しいブルーシートに再生する水平リサイクルプロジェクトを起点に、東洋インキ株式会社、相川鉄工株式会社と共同開発した食品用フィルムのリサイクルなどを手掛けてきました。いずれも世に先駆けてのプロジェクトだったので、技術開発のコスト負担は決して小さくはありませんでした。しかし、フロントランナーという認識が広まり、他の業界からも「一緒にやりましょう」という声がかかってくるようになりました。そのひとつ



が、2024年9月に鹿島建設株式会社、J&T環境株式会社と共同で取り組んだ、建設現場で廃棄される使用済みのプラスチック梱包材を土のう袋に再生利用するための実証です。これまでに培ってきた洗浄・濾過の高度な技術を用いて細かな異物を除去することで、ポストコンシューマ材料(製品として使用された後にリサイクルしたプラスチック材料)を利用した、土のう袋の連続生産が可能なることを実証できたのです。ほかにも、ブルーシートのリサイクル率を上げるための取り組みとして、岡山県内のリサイクル事業者と連携し、同社の敷地内に当社が設計した洗浄プラントを2025年4月に稼働させる予定です。

そうして現在、ブルーシートとは関わりの少ない業界からも、リサイクルをはじめサーキュラーエコノミーに関連することで多くの声がかかるようになってきました。これまでの経験と培ってきた技術、ノウハウに加え、さまざまな情報が集まっていることを強みに、「萩原工業に相談したらなんとかなる」「新しい技術を有する萩原工業だったらこんなことも可能かも」と、ファーストコールを受ける会社を目指したいと思っています。

また、環境省が推進している「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」の賛同企業として、高梁川上流の森林保全を支援しています。当社単独の事業としてリサイクルを行うだけでなく、高梁川流域というつながりのなかで根本的な環境活動を実践することが大事だと考えてのことです。これは、70年前に倉敷の大実業家・大原總一郎氏が提唱し、今も脈々と受け継がれている「高梁川流域連盟」の理念にもつながること。そんな歴史を秘めたこの倉敷の地で誕生し成長し続けている当社としては、いろいろな会社と協力して、それぞれが有する技術を集め、高梁川流域の自然を守っていきたいと思っています。

[ステークホルダーの皆様へ]

「五方よしの経営」を基本に 持続可能な成長を目指す

萩原工業は、社員とその家族、仕入先、お客様、地域社会、株主の皆様の幸せを追求する「五方よしの経営」が基本です。

つまり、中期経営計画の経営目標数値に掲げた総還元性向70%の達成を目指すなら、社員の給与も上げなくてはならないし、仕入先やお客様、地域社会にも何らかの形で還元しなくてはならないということです。そのためにも、シートを必要とするエンドユーザーに一步近づいてニーズを知り、それに応えて機能を高めることや、笠岡工場でのシート加工や印刷技術などを活かして新たな使い方をお客様に提案し、さらなる利益を生み出し続ける所存です。

そうしてステークホルダーの皆様をはじめとする大切な方々の豊かな暮らしを支えるとともに、萩原工業グループの持続可能な成長の実現に向けて力を尽くしてまいります。

今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

萩原工業のものづくりを支える 「深化」と「探索」

今後も会社を存続させ、さらに成長させていくためには、「深化」=現在行っている事業を安定させ強化すること、「探索」=新しい挑戦やイノベーションを起こすこと、の両方をバランスよく行うことが大切だと考えております。

これまでの事業領域やものづくりを大切にしながらも、既存の方法に囚われることなく、未知の領域に対する知的探究に積極的に取り組んでまいります。

EXPLOIT 深化 既存領域の拡大、強化

創業60年を超える歴史の中で、既存事業である合成樹脂事業と機械事業の両事業において、お客様の声を大切にしながら各製品の品質改善や性能向上だけでなく、業務の効率化や最適化にも努めてまいりました。

これからも「フラットヤーン技術」を核に据えた事業分野におけるスペシャリストとして、安定性・効率性が高い経営を目指してまいります。

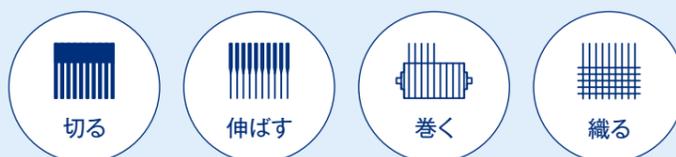
EXPLORE 探索 新たな価値、新製品の創出

コーポレートスローガンの「ハミダセ、アミダセ。」のように、既存の枠を飛び出し、新しいイノベーションを起こすことをモットーにものづくりに向き合っております。

新たな挑戦には失敗がつきものですが、企業スピリットである「おもしろえ直ぐやってみよう」という、失敗を許容し諦めないマインドセットが不可欠だと考え、チャレンジを重視し、リスクテイクしながら新たな可能性を模索してまいります。

技術力 新たな可能性を生み出す ▶ P9-10

コア・コンピタンス (4つの中核技術)



- フラットヤーン技術を基盤としたものづくり
- バルチップなどの独自の開発技術
- 機械・設備を設計・製造するエンジニアリング事業
- 基礎研究、基盤技術の蓄積



開拓力 社会のニーズを見つける ▶ P11-12

- 新規市場の開拓
- 積極的な展示会出展
- ランチェスター戦略を取り入れた営業
- グローバル展開の実践
- 現場に根ざした市場調査(顧客ニーズの把握)
- データに基づいた科学的分析

具現化力 必要とされる製品を形にする ▶ P13-14

- 幅広いジャンルへの製品開発
- 強固なサプライチェーン
- 安定した生産体制
- 新たなブランドの創出

【企業のあるべき姿】

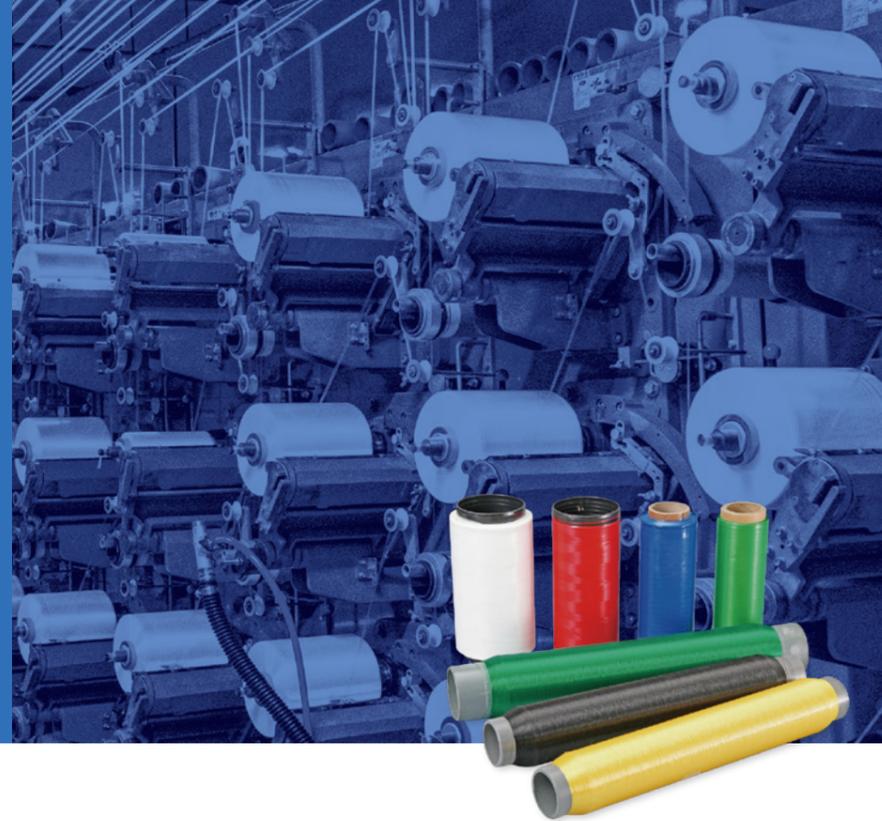
イノベーション、持続的成長 ▶ P27-28

【社会への貢献】

人々の生活に役立つ製品の創造、供給 ▶ P15-16

1 新たな可能性を生み出す
技術力あなたの暮らしを支える
フラットヤーン

ポリエチレン、ポリプロピレンのフィルムを短冊状に切断し、延伸することで作られる軽くて強い平らな糸「フラットヤーン」。フラットヤーン技術はあらゆるシーンで利用されあなたの暮らしを支えています。



「切る、伸ばす、巻く、織る」の中核技術

萩原工業を長らく支え、これからも中心となる技術が「切る、伸ばす、巻く、織る」という技術。この中核技術を中心に、事業を展開する経営を大切にしてきました。中核技術を深耕させ、様々な付加価値を加えることで、競争力・技術力を高めています。



コア・コンピタンス (4つの中核技術)



ポリエチレン、ポリプロピレンのフィルムをスリット(短冊状に切断)する技術。

切断されたフィルムを延伸する技術。延伸することで強い糸になる。

出来上がった糸を効率的に巻き取る技術。

フラットヤーンからさまざまな用途のシートや梱包材を織る技術。

暮らしの様々なシーンで使われている商品へ



萩原工業が開発した独自の技術

レイシス | ゼロ次放出®を可能にする技術



多孔質フィルムに薬剤を浸み込ませ「放出量」と「放出時間」を制御する技術です。これにより、ガス化した薬剤濃度を安定的に保持する理想的なゼロ次放出を実現します。

多様な薬剤、製品、技術と「レイシス」を組み合わせ、新たな価値を共創します。



バルチップ | 繊維をコンクリートに混ぜて補強



長年培った合成樹脂繊維製造の知見より、鉄を代替する強靱な繊維を製造しています。

開発した繊維を即座に各種コンクリート試験で検証できる社内ラボ体制を構築。また、国内外の研究機関や大学と提携し、更なる用途開発や実証データの蓄積に取り組んでいます。



設計からプログラム、組み立てまで一貫製造を行うエンジニアリング事業

エンジニアリング事業部門では受注生産を基本としており、お客様のご要望を図面上に反映するために設計部門に多くの技術者を擁しています。中核技術であるロールからロールへのウェブ搬送と巻取技術については、常設のテスト機を利用した検証による材料適性を担保しています。

また樹脂関連製品におきましても、各種テスト機による検証を踏まえて、お客様の材料にあった機器やプロセスを提案することを基本としています。お客様の管理手法に合わせたデータ抽出や、現場での使い勝手改善をタイムリーに行うために、制御系も含めてプログラムを自社で作成しております。



2 社会のニーズを見つける
開拓力新たな用途開発に
つなげる

当社製品は、人々の生活から産業活動まであらゆるシーンで活躍しています。実際に製品が使用されている現場に出向き実態を理解することで新たな用途開拓に繋がっています。

開発や製造のノウハウを活かしたマーケットの開拓

自社に精通した営業部門であることが当社の強みの一つです。営業部門には、開発や製造に携わっていた社員が多く在籍しています。そのため、世の中に存在しない製品を求められた時でも、萩原工業で実現できるかどうか、迅速に判断することができます。



企画提案の流れ

情報収集

日々の営業活動や、製品サイトへのお問い合わせにおいて、お客様の抱えている課題やニーズを把握。また、国内外の展示会等への積極的な参加により、各国の状況にアンテナを張り、情報収集。

分析

既存製品についての意見やお客様が持っている課題を精査し、共通するものを洗い出すことでお客様が求めている製品やサービスについて予測する。

現場訪問

自らが立てた予測に対して、現場の声と一致しているかどうかを追加でヒアリングし精度を高める。

提案

他部署と連携しつつ、実現可能な方法について模索し、新製品の企画を立てる。

開発部門

企画

課題を抱えていたお客様に対して、新商品の企画を提案する。

お客様

積極的な展示会出展

製品の展示会に積極的に出展することで、マーケットの開拓を行っています。国内だけではなくアジア、欧米・南米各国等、海外の展示会にも出展しており、それをきっかけにした引き合いも多く、着実に実績を上げています。社会のニーズを見つける「開拓力」を実践的に培うため、若手社員も積極的に参加しています。



2024年の主な出展展示会

国内

- CONVERTECH2024
- 中四国環境ビジネスネット(B-net)フォーラム2024
- 建築・建材展2024
- 第10回 東京猛暑対策展
- GARDEX(第18回国際ガーデン&アウトドアEXPO)
- 探求・体験マルシェ in OKAYAMA
- ラベルフォーラムジャパン2024
- 第33回 プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム
- 令和6年度 暮らし防災フェア
- おかやまテクノロジー展(OTEX)2024
- エコプロ2024
- サーキュラーパートナーシップEXPO

海外

- Techtextil 2024(ドイツ)
- APFE 2024(中国)
- PROPACK ASIA 2024(タイ)
- Plaspak Indonesia 2024(インドネシア)
- fib Symposium 2024(ニュージーランド)
- Construtec 2024(スペイン)
- SAIE trade fair(イタリア)
- Latin American Infrastructure Forum 2024(パラグアイ)
- SOMOS INDUSTRIA(アルゼンチン)
- Tunnel Mining 2024(ペルー)

14カ国
27拠点

各国に広がるネットワーク P.33

積極的な海外展開により、萩原工業グループの製造・販売拠点は世界14カ国まで増えました。言語や生活習慣はもちろん、商流や物流にもそれぞれの国で違いがあるため、現地での情報収集力を活かして市場の開拓を行っています。密に連携を取りつつ、それぞれの国や地域に合ったマーケティングを行っています。



Hagihara Industries Yguazu SRL(パラグアイ)



PT.Hagihara Westjava Industries(インドネシア)



萩華機械技術(上海)有限公司(中国)



Hagihara Industries (Thailand) Co.,Ltd.(タイ)

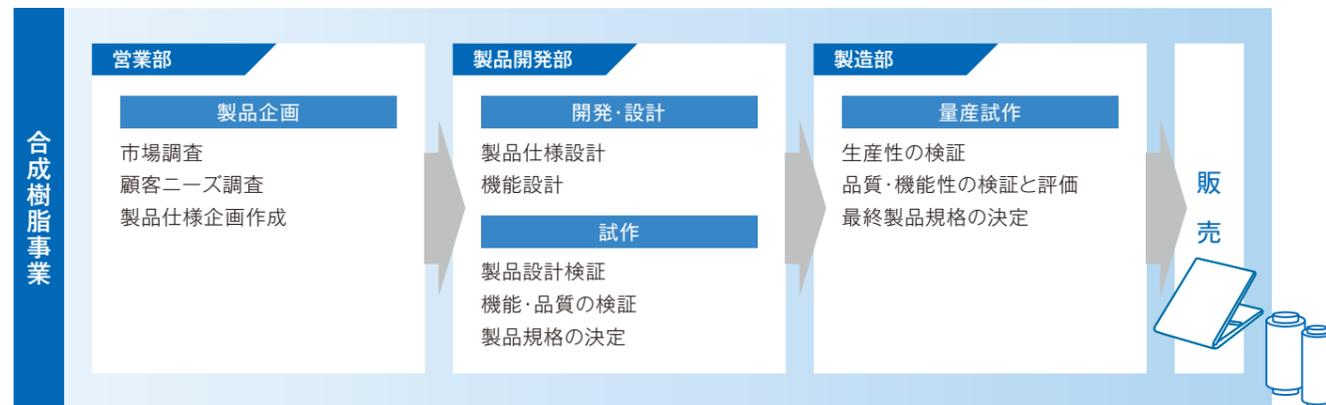
3 必要とされる製品を形にする
具現化力市場のニーズに応える
製品の具現化力

社会が求める製品を提供するためには固定概念にとらわれない製品開発が必要です。当社では新規製品の開発を積極的に行い新しい市場や用途を開拓しています。



ユーザーやマーケットの目線で行われる萩原工業のものづくり

当社ならではの強み。それは、ブルーシートを一貫生産する「合成樹脂事業部門」、スリッターなどの産業機械を製作する「エンジニアリング事業部門」、製品開発を行う「開発部門」が自社内に全てあることです。難しい課題には三位一体で取り組むことで、新たな製品・機能などを具現化し、市場のニーズに応えています。



国内外の事例

市場と技術をつなぎ合わせるのは、製品です。国内外問わず、社会が求めている機能を製品として具体化することで、市場のニーズに応えることができます。また、新しい市場を開拓することもできるのです。

国内

▶ “遮熱+防水”で船上輸送を支える「ターピー 遮熱シート スノーテックス」

精密機械の輸出で頭を悩ませているのが厳しい気候条件。船上輸送では雨ざらしになることが多く、また温度上昇により機械不良になることも懸念されます。

そこで採用されたのが「ターピー 遮熱シート スノーテックス」。シート表面にある無数のマイクロボイドが日光を乱反射させ、温度上昇を抑制。また高い耐候性と防水性で雨水の侵入も防ぎ、長期の保管や輸送梱包の強い味方となっています。



▶ 「ターピー 印刷シート」で工事現場がPR媒体に!

2023年9月に導入した最新鋭の印刷機により、これまで難しかったポリエチレンシートをはじめとした様々なシートに印刷が可能となりました。

金龍ラーメン(相合橋本店)の立体看板撤去工事にも「ターピー 印刷シート」が採用され、従来であれば無地のシートを掛けて工事を行う現場に、シートに印刷を施すことで龍の立体看板がなくなった後を再現。メディアで話題となり、TVやWEBで数多く取り上げられました。



▶ 株式会社三條機械製作所との共同開発製品を上市

シールラベルの製造において、ダイカット工程とスリット工程は前後別で行うことが業界の常識でした。

この度、この2工程を1工程で行うことを可能にし、シールラベルの製造工程の省人化・効率化に対応した製品を開発上市しました。

この製品開発の背景には、2023年に業務提携を取り交わした株式会社三條機械製作所との共同開発により、高精度なラベル印刷機の機能を当社製品に取り込み、画期的な機械製品の開発が実現しました。

本機をラベルフォーラムジャパン展にて披露し、その後お客様へ納入してご活用いただいています。



海外

▶ Techtextilに出展

2年に一度ドイツのフランクフルトで開催される、繊維を中心とした業界最大の国際的な展示会「Techtextil」。EU圏での認知・販路拡大を目的として、2021年より取引を開始したポーランドのJACOL Sp. z o.o社と共同出展をしました。

EU圏で最も多いのは塩化ビニル製品を扱うメーカーですが、注目アイテムを絞って製品紹介を行うことで、今後更なる販売増加を目指します。現地代理店とも連携して、国内とは異なる海外需要の取り込みと販売拡大を強力に進めてまいります。

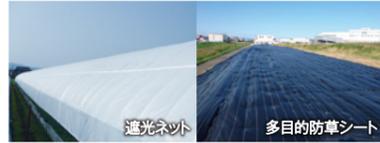


製品・サービス一覧

合成樹脂事業

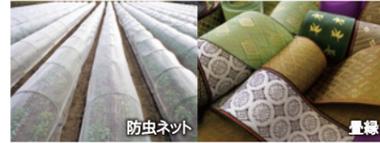
フラットヤーン

様々な製品に広がる萩原工業の中核技術。この技術を応用し、ブルーシートやスリッターなど様々な事業に広がっています。



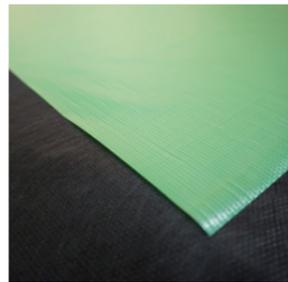
モノフィラメント

創業当初から製造している萩原工業の原点。60年以上経った今でも様々な製品の素材として使用されています。



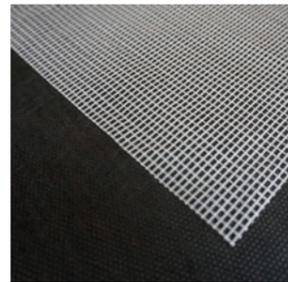
粘着原反

フラットヤーンの織物をラミネートした基材。手切れ性があり、粘着テープの基材として活用されています。



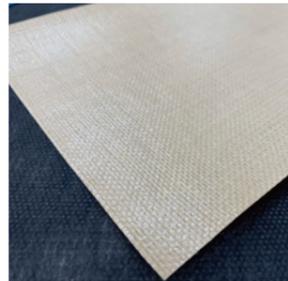
メルタック

フラットヤーンを使用した熱融着クロス。経糸と緯糸が熱融着されているため目ズレやほつれが起こりにくく、軽量かつ高強度です。



フレキシブルコンテナクロス

輸送・保管に使用されるフレキシブルコンテナバッグ用のクロス。比較的太いフラットヤーンを使用しており高強度ですが、柔らかな風合いで織り上げています。



プライマリーバックグクロス

高強度かつ低収縮のフラットヤーンの織物。人工芝やカーペットでパイルを差し込む基材等に活用されています。



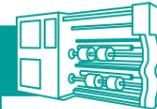
バルチップ

コンクリートの耐久性向上、土間コンクリートの工期短縮による省力化、老朽化した社会インフラの修復など、社会が抱える問題点に応えています。



シート・土のう

高品質な製品を使用用途に応じて提供したいとの思いから立ち上がった、萩原工業製シート・土のうブランド「Tarpee(ターピー)」。



機械事業

スリッター

シート状の長尺ロールを巻出し任意の幅に断裁し、再びロール状に巻き取るロール加工機。長尺ロールの材料としては、紙製品から各種プラスチックフィルムなどの消費財から2次電池部材など多岐にわたります。



巻返機

ロール状に巻かれた基材を巻き直す機械。巻姿の修正や指定長さへの分割・結合の他、検査装置を用いて欠点の検査も可能です。



ワインダー

糸(ヤーン)やテープ、電材などの細幅の基材をポビンに巻き取る機械です。



再生ペレット製造装置

樹脂成型時のロス(耳や不良)を、粉碎～溶融～造粒し、再生ペレットを製造します。



押出機関連機器

ドイツ製のスクリーンチェンジャーやギアポンプ等の機器を、ユーザー仕様に合わせてカスタマイズして販売しています。



SUSTAINABILITY

近年、プラスチックに係る様々な環境問題に対応していくため、資源循環を加速していくことが求められています。萩原工業はプラスチック製品メーカーとして、ブルーシートを環境配慮型製品へ変えていく取り組みを進めています。

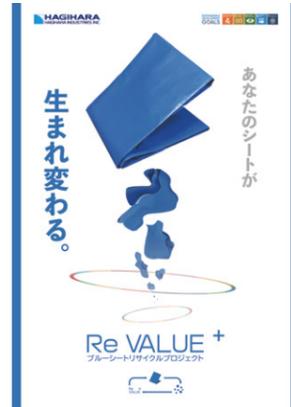
水平リサイクルプロジェクト

Re VALUE+

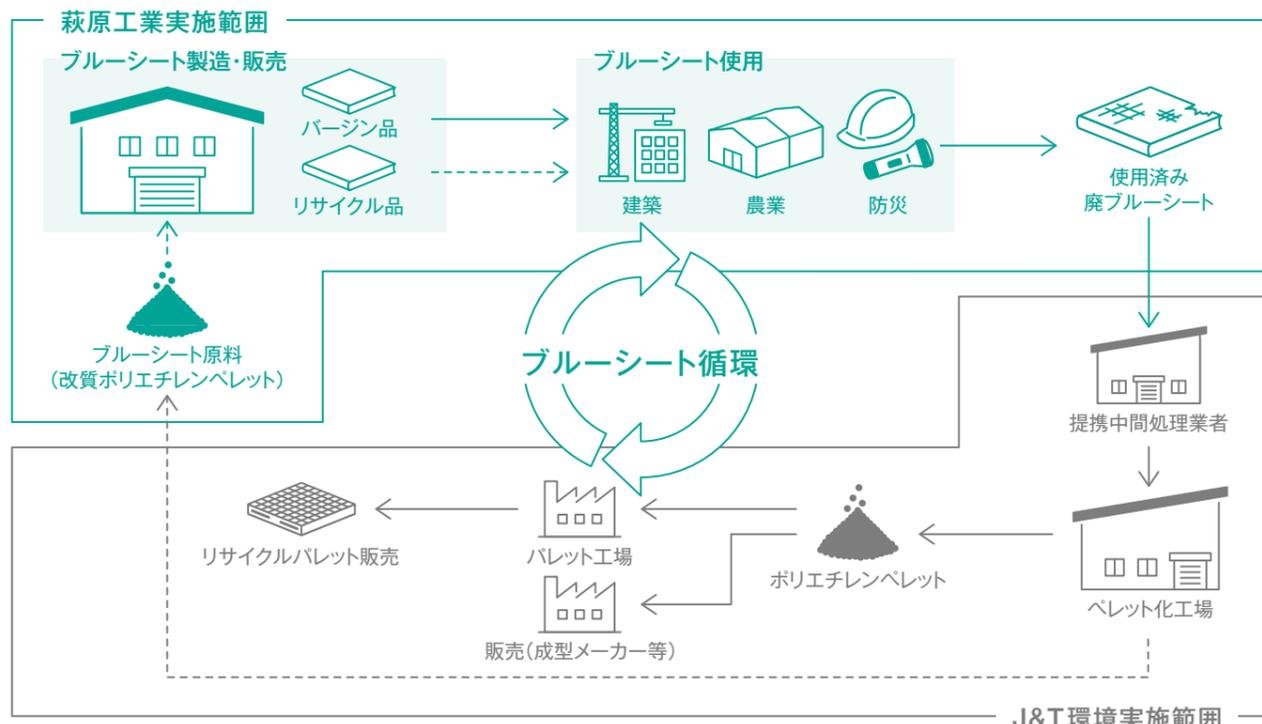
「Re VALUE+(リバリュープラス)」とは、萩原工業とJ&T環境株式会社が提携して取り組む、使用済みブルーシートを回収し、新たなブルーシートを製造する水平リサイクルプロジェクトです。

現在、廃ブルーシートの多くは焼却処分され、一部は再生ペレットにリサイクルされていますが、品質の問題からカスケードリサイクルに留まっています。ところが昨今、水平リサイクルへの関心が高まっています。

当社と廃棄物の回収ネットワークとリサイクル技術を有するJ&T環境は、ブルーシートの循環スキームを段階的に構築し、廃ブルーシート年間5000トン「Re VALUE+」の対象として回収、リサイクルすることを目標としています。



ブルーシート水平リサイクル「Re VALUE+」スキーム



凡例: 実線 第一段階(一部実施済) 点線 第二段階(将来予定)

Re VALUE+製品企画展開例

新たな「Re VALUE+」企画としてリユースでサステナブルな流通革命支援

2024年1月からEC配送の脱炭素化を推進する株式会社comveyに素材供給とリサイクルスキームでの協業を本格的に開始しました。comvey提携ブランドのオンラインストアで「シェアバッグ®」の運用をスタートしています。

「シェアバッグ®」とは郵便ポストに返却できるリユース梱包で、従来のダンボール梱包に比べて10回の配送で85%以上のCO₂排出量を削減でき、消費者の梱包ストレスも軽減することができます。数十回のリユースを経て寿命を迎えたバッグは再生ペレットに生まれ変わり、原材料として再利用を予定しています。「シェアバッグ®」は2023年度「グッドデザイン賞」やアイスタイル主催の2024年度「Japan BeautyTech Awards」で「特別賞」を受賞しています。



「Re VALUE+」パートナー企業との連携拡大

水平リサイクルにより、新たな資源採掘やエネルギー消費を抑え、CO₂排出量の削減や産業廃棄物処理に伴う環境負荷低減に賛同していただいたパートナー企業とのRe VALUE+シート推進を実施しています。

従来からのパートナーである住宅建築「ライフデザイン・カバヤ株式会社」に続いて総合建設業「アイサワ工業株式会社」、イベント制作会社「株式会社セレスポ」と、様々な業界との連携で協業を進めています。



さらなる環境配慮型プロダクトへの刷新

廃棄されるプラスチック梱包材を土のう袋に再生利用

鹿島建設株式会社、J&T環境株式会社と共同で、建設現場で廃棄される使用済みのプラスチック梱包材を土のう袋の材料として再生利用できることを実証しました。

本実証の目的は、使用済みプラスチック梱包材を建設現場で用いられる土のう袋へと再生するリサイクルシステムを構築することです。高度な洗浄・濾過技術を用いて異物を除去することでポストコンシューマ材料を利用した土のう袋を連続生産できることが確認できたとともに、これまで焼却処理されていたプラスチック梱包材をリサイクルすることでバージン材の使用量を減らすことに繋がりました。

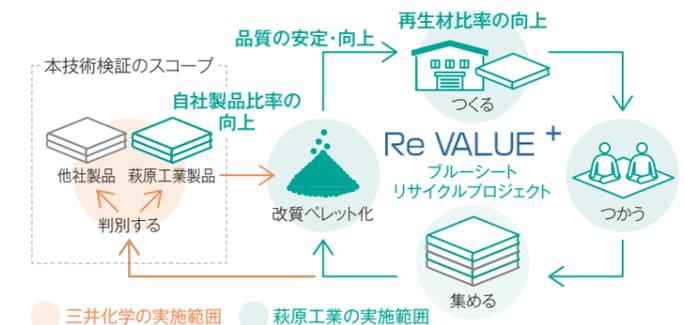


使用済みブルーシート回収品判別の技術検証で連携

三井化学株式会社と当社は、回収した使用済みブルーシートから萩原工業製品を判別する技術検証を2024年12月より開始しました。

本検証の目的は、当社が取り組む使用済みブルーシートの水平リサイクルプロジェクト「Re VALUE+」の品質を向上させることです。三井化学はケミカルトレーシングを用いて、使用済みブルーシートの中から萩原工業製品と他社製品を判別する手法を構築します。萩原工業は当該手法を用いて、廃ブルーシートから萩原工業製品を判別し、水平リサイクルする再生材の品質向上ができるかを検証します。

本実証を通じて、Re VALUE+の発展を目指すとともに、サーキュラーエコノミー実現に向けて貢献してまいります。



ENVIRONMENT

萩原工業グループは、環境に配慮した製品・技術・サービス・企業活動を通じ、社会の持続可能な発展に貢献するべく、「脱炭素」、「循環経済」、「分散・自然共生」という多角的な切り口によるアプローチでSDGsにも取り組んでまいります。

萩原工業グループの環境経営



1 2050年カーボンニュートラルの実現、新たな2030年度の削減目標の達成に向けて、環境負荷を軽減し、脱炭素化を目指します。



2 プラスチック資源循環を促進し、「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行の促進を目指します。



3 自然共生、レジリエントな社会・地域づくりに向けて、気候変動対策と防災・減災対策の効果的な連携を目指します。

環境経営の取り組み

私たちは、環境経営を推進するサステナブル企業として、1.気候変動への対応、2.循環経済への対応、3.環境に配慮した製品の開発、4.防災・減災対策にメーカー（つくる責任）として取り組みます。

環境経営 目標 2025

（2023年10月期から2025年10月期までの3カ年中期経営計画の期間中）

| 目標達成に向けての取り組み | 2023年(実績) | 2024年(実績) | 3カ年目標値 |
|--|----------------------|----------------------|----------------------|
| 気候変動・循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発 水平リサイクルシステム「Re VALUE+」再生ブルーシートのリサイクル率の向上 | 25% エコマーク認定の25%達成 | 25% エコマーク認定の25%達成 | 25% エコマーク認定の25%達成 |
| 気候変動・循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発 エコマーク認定商品・エコマーク認定商品の販売量 | 113%増 | 281%増 | 300%増 |
| 循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発 高品位樹脂再生プロセス「GXライン」再生ペレット製造装置の販売額 | 3.0%減 | 45%増 | 30%増以上 |
| 気候変動への対応と防災・減災対策 地方公共団体・建設業協会等との防災協定の締結件数(累計) (カッコ内は、2022年10月末からの増加数) | 20件 (+4件) | 23件 (+7件) | 26件 |

環境に配慮した製品の開発

ターピー

ターピー リバリュープラスシート #2500

2023年4月、使用済みブルーシートから作られた再生原料を25%以上配合した「ターピー リバリュープラスシート #2500」が公益財団法人日本環境協会よりエコマークの認定を受けました。

ターピー 防災・減災シート #3000

再生原料を60%以上使用したエコマーク取得品。約2年相当の耐候性を保有し、短辺へのロゴマーク刻印でスムーズな施工が可能となりました。ODグリーンカラーで景観にも調和します。



水平リサイクルのための設備開発

プラスチック製品における水平リサイクルを可能としたGXライン。プロセスを研究開発するうえで、造粒しながら調質や改質を行う技術を確認しました。そしてより高品質なリサイクル原料を得るために、造粒前の洗浄装置の開発に取り組んでいます。従来設備に比べ大幅な洗浄力の向上と、汚水廃棄の大幅な削減を可能とします。

バルチップ

鉄筋の代わりにバルチップを使用することで、CO₂の排出量を78%削減することが可能です。(製造と輸送時にかかるCO₂排出量をISO14025に基づき計算)

防災・減災の取り組み



高耐候・高品質

当社製ブルーシートは、海外製に比べ耐候性に優れており、長期間の使用が可能です。自然災害が多い日本で、防災・減災用途としても活躍しています。



防災協定

災害時に必要な物資の供給を迅速かつ円滑に行えるよう、23の自治体等と災害時におけるブルーシート・土のう袋等の供給に関する協定を締結しています。(2024年10月31日現在)



能登半島地震の復旧支援

国の要請に基づき被災地向けにシート8.5万枚、土のう17万袋を緊急出荷し、早期復旧をサポートしました。(写真はボランティア団体と開発した「屋根瓦補修シート」設置の様子)

萩原工業グループでは、地域社会との連携を通じ、企業価値を高める活動を推進しています。
さらに、社員一人ひとりが個々の能力を最大限に発揮し、いきいきと働ける環境づくりを目指しています。

地域・子どもの支援



BRIDGE OKAYAMA

西日本豪雨災害の復興支援として、被災地で使用されたブルーシートを回収、トートバッグに再利用し、売上を復興に役立てる活動に参加しました。
【寄付金総額】
倉敷市：1,067,523円、総社市：1,067,524円



BRIDGE SETOUCHI

BRIDGE OKAYAMAの活動終了後、当社の製造工程でロスになるブルーシートをトートバッグに再利用し、売上の30%を防災・減災活動の基金として役立てる活動を開始しました。現在はリニューアルし、再生ブルーシートを生地に使用しています。



「倉敷限定!女性ドック」の受診特典

倉敷成人病健診センターと共同製作した「KMCオリジナルBRIDGE SETOUCHIブルーシートドック」が女性ドックの受診特典として配布されました。2,209名の方が受診され、受診者1人につき200円、計441,800円が防災・減災・災害復興活動の基金として寄付されました。



工場見学の受け入れ

当社は工場見学の受け入れを積極的に行っています。企業理念、安全、人材育成等について異なる業種・立場の方々と意見交換を行ったり、社員の家族を招待して工場見学ツアーを行うことで、当社への理解を深めていただくと共に新たな価値を創出しています。



防災イベントへの参加

大規模な防災訓練や防災について楽しく学ぶイベント等に参加しています。当社の製品が防災や災害時にどのように役立つのか、展示や体験を通して知っていただくことを目的としています。



海外インフラ整備を支援

国立アスンシオン大学(パラグアイ)とコンクリート工学の教育・研究で提携、同国の技術力向上を通じてインフラ整備に貢献します。
(写真出典：首相官邸ホームページ
https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/actions/202405/03paraguay.html)

働き方改革応援製品の開発



南摩ダム コンクリート保温

2枚のブルーシートの間に発泡シートを挟むことにより、防水性と保温効果を両立。コンクリートのひび割れが抑制され、工期の短縮とコスト削減に貢献しました。



巨大防災シート

屋外の資材養生のためにオーダーされたのは30m角の巨大防災シート。当社の加工技術で、ニーズに応じた多種多様なオーダーメイドを可能にしています。



バルチップ

建設業界内の人材不足が叫ばれる中、バルチップを使用することで鉄筋が不要になり、工期短縮、人材不足対策に寄与します。

働きやすい職場づくり

社員に優しい職場環境



ストック・オプション

社員の中長期的な企業価値向上に対する貢献意欲や士気をより一層高めるため、ストック・オプション(新株予約権付与)を実施しました。



なごみ保育園

社員が安心して働ける環境を構築するため、0歳(3か月)~5歳までを対象とした12名定員の小規模保育園を、2018年6月に開園しました。



社員食堂

半額を会社負担とし、低価格で出来立ての食事が摂れます。食堂は部署を超えたコミュニケーションの場でもあり、モチベーションアップに繋がっています。

ダイバーシティ



女性の社外取締役

創業者以外から初の女性取締役として2019年に就任しました。視点の多様性が広がり、審議の質の向上に繋がっています。



女性入社率の増加(新卒)

約10%だった女性入社率を過去5年で約30%まで増加させました。女性が活躍できる環境づくりを進めています。



障がい者雇用

障がいがある社員でも、最大限に能力を発揮して働くことのできる職場環境を目指しています。(障がい者雇用率:2.85%)



外国籍人材雇用

外国籍の社員も正社員として採用し、グローバル化に対応した人材育成を進めています。

社外からの認定・評価



「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞経済産業大臣賞受賞

リストラをしない経営姿勢や正社員雇用率の高さ、社長室に掲示されている全社員の顔写真、社員の誕生日に社長のメッセージカードを添えたバウムクーヘンをプレゼントする取り組み等が評価され、受賞に至りました。



バースデーカード



社長室に掲示された顔写真



「倉敷市男女共同参画推進事業所」認定

企業主導型保育所の設置、時間単位有給休暇制度の導入、健康経営の推進等が評価されました。



「おかやま子育て応援宣言企業」岡山県知事賞受賞

男性の育休取得の促進、子育て世代意見交換会の開催、企業主導型保育所の運営等が評価されました。

GOVERNANCE

役員一覧

(2025年1月31日現在)

取締役



代表取締役社長
社長執行役員
浅野 和志



取締役
執行役員
犬飼 正樹



取締役
執行役員
飯山 辰彦



取締役
執行役員
藤田 学



取締役
執行役員
笹木 真尚



取締役
執行役員
萩原 佳明

取締役



社外取締役
大原 あかね

監査役



社外取締役
西田 陽介



監査役
雑賀 英樹

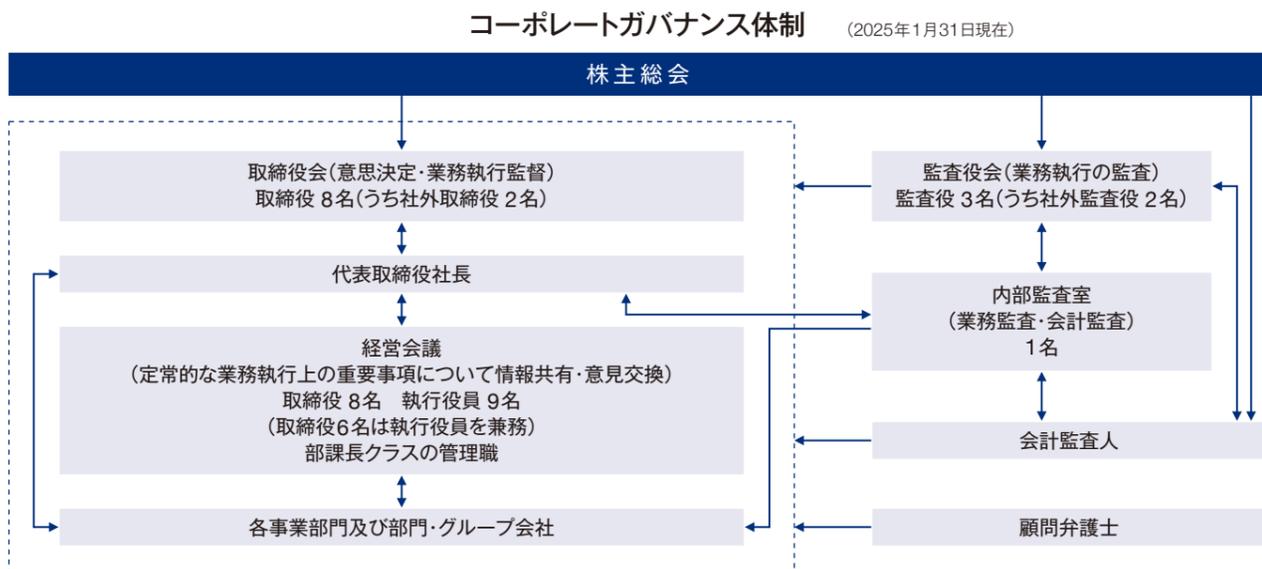


社外監査役
石井 辰彦



社外監査役
三宅 孝治

執行役員
柴田 幸久 平野 泰弘 貝原 祐一



| | 取締役会 | 監査役会 | 経営会議 |
|--------------|--|---|------------------------------|
| 目的・内容 | ・業務執行の決定 ・取締役の職務の執行の監督 | ・監査方針の決定 ・会社業務・財産に関する調査方法等の決定 | ・定常的な業務執行上の重要事項について情報共有・意見交換 |
| メンバー | 取締役、監査役及び執行役員 ・社外取締役・監査役の出席率(2023年11月～2024年10月) 大原あかね(100%)、西田陽介(100%)、石井辰彦(100%)、三宅孝治(100%) | 監査役 ・社外監査役の出席率(2023年11月～2024年10月) 石井辰彦(100%)、三宅孝治(100%) | 役員及び課長以上の管理職 |
| 開催頻度 | 定例は毎月1回(加えて必要に応じ随時) | 定例は毎月1回(加えて必要に応じ随時) | 3.6.9.12月に1回ずつ |

内部統制システム

当社は、取締役会において「会社の業務の適正を確保するための体制」整備の基本方針を決定し、効率的で適正な業務体制による運営を目指しております。なお、より効率的で充実した体制の構築のため、毎年1回、基本方針の運用状況等を確認のうえ、見直しの取締役会決議を行っております。

内部通報制度

| | |
|-----------------|--|
| 通報先 | 社長、取締役会、監査役会、事業支援部門 総務部総務・人事課又は指定弁護士事務所 |
| 利用できる対象者 | 当社及び子会社における正社員、準社員、嘱託社員、パート社員、派遣社員、通報の日から1年以内に社員であった者及び役員 |
| 通報件数 | 2021年11月～2022年10月は0件 2022年11月～2023年10月は2件 2023年11月～2024年10月は1件 |

当社では、健全な企業風土の醸成と法令及び社内諸規程遵守を徹底するため、内部通報制度を設けています。通報先として社内の担当部署等に加え、社外の弁護士事務所を指定するとともに、通報者の保護及び報復行為の禁止を規程で定めることにより、適切かつ有効な制度運用を図っています。



MESSAGE 事業支援部門長 藤田 学

事業部門を支える「縁の下の力持ち」

コーポレートガバナンスの強化を通じ、ステークホルダーからの信頼を高め、持続的な成長を目指すとともに、成長戦略の要諦である環境や人権問題への対応、人的資本の強化など、企業存続の必要条件に着実に対応してまいります。

行動規範

- 1. 法令遵守**
(その行動は、法令・規程に触れないだろうか?)
- 2. 顧客満足**
(その行動は、お客様を満足させているだろうか?)
- 3. 透明な関係**
(その行動は、誠実だろうか?)
- 4. 働きやすい環境**
(その行動は、働きにくい環境にしていないだろうか?)
- 5. 環境への配慮**
(その行動は、地球環境を守っているだろうか?)
- 6. 国や地域との協調**
(その行動は、傲慢になっていないだろうか?)
- 7. 反社会的勢力および団体への対応**
(その行動は、正しくないと知りながらやっていないだろうか?)

中期経営計画

2022年12月に策定した中期経営計画「飛躍に向けた原点回帰」は、前計画の主要戦略を引き続き着実に実行することによる収益拡大と、資本効率を意識した財務戦略を2本柱とし、企業価値の向上を目指しています。

中期経営計画の位置付け

2019年12月に発表した中期経営計画「UPGRADE For Next 60」が大きな未達に終わったことを踏まえ

- ①未達に終わった目標を達成する。
- ②新たな財務戦略を実行する。

ことを主軸に、次なる飛躍に繋げていく3ヶ年の中期経営計画です。

【中期経営計画 スローガン】

飛躍に向けた 原点回帰

v(victory)字回復、
そしてJ(Jump)字成長へ、「v for J」

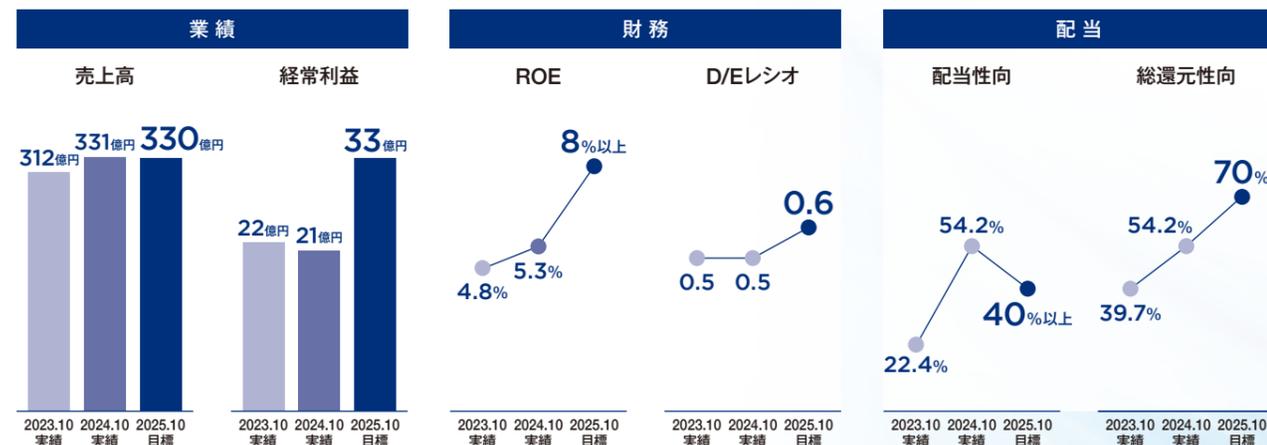
victory
事業環境に
対応するための
v字回復戦略

Jump
成長軌道に
乗るための
Jump戦略

経営目標数値

未達に終わった前計画の収益目標を踏襲し、v字回復・J字成長戦略を通じて確実な目標達成により次なる成長へのスタートラインとします。また新たに財務目標を設定し、資本効率の向上を図ってまいります。

実績値(2023/10期、2024/10期)と目標値(2025/10期)



事業環境に対応するための v字回復戦略

1 適正な価格の実現 そのための製品競争力強化

原材料価格やユーティリティコストの高騰を確実に製品価格に反映させるために、その価格に見合う価値をお客様にお届けできるよう、製品の品質や使い勝手を向上させるとともに、競合他社との価格競争に巻き込まれないよう、当社独自の価値を製品に付加してまいります。



2 最適な生産・物流体制の構築

南米でのバルチップ生産開始

P28

パラグアイでのバルチップ生産を開始し、主要需要地である南米への安定供給、リードタイム短縮、海上運賃高騰リスク軽減などを実現します。

中国でのシート生産機能の国内移転

2023年6月に中国子会社青島萩原工業有限公司の清算が終了し、同国でのシート生産機能の国内移転を完了しました。

エンジニアリング事業の最適生産

機械製品のサプライチェーンの見直しを図り、納期の短縮とコスト変動の防止を進めています。

成長軌道に乗るための Jump戦略

1 技術を、磨く。

- ▶ 水平リサイクル実現のための技術開発 P17
- ▶ 環境、リサイクル需要への対応 P20



2 製品を、広げる。

- ▶ シート、土のうのブランド再構築 P16
- ▶ 自治体、建設業協会との防災協定締結 P20



3 市場を、創る。

- ▶ B to C 分野の強化
- ▶ 海外市場開拓
- ▶ サーキュラーエコノミーの実現 P17
- ▶ シート加工の強化による高付加価値化



4 社員の成長と幸福を、伸ばす。 P22

- ▶ 製造現場の省力化
- ▶ 子育てサポートの強化とシニア社員の活躍促進



成長戦略

萩原工業グループでは、リサイクル推進という社会的要請に応えつつ、お客様のニーズにきめ細かく対応した製品づくりと、成長著しい海外市場の取り込みを軸に、一層の成長を目指してまいります。

リサイクルスキーム確立と
グローバルな地産地消販売の拡大

合成樹脂事業部門長 犬飼 正樹

2024年10月期は原材料価格等の価格転嫁が進んだ結果、増収増益となりましたが、販売数量では大きな伸びはなく厳しい状況は継続しています。世界的環境も海上運賃の乱高下、自国優先主義による関税障壁への対応が必要となってまいりました。

また多様化する顧客ニーズへの対応としてシート加工部門の強化を目的に、笠岡新工場の稼働がスタートしました。

今後、自前のリサイクル設備が2025年4月に稼働予定です。より良い製品を提供することは勿論のこと、水平リサイクルRe VALUE+戦略としてお客様へ「捨えないという選択」のご提案を始めていきます。

海外市場ではインドネシア、パラグアイ、北米の製造拠点活用にてグローバルな地産地消販売を強化してまいります。インドネシアでは国内バルチップ、食品用PC袋、パラグアイでは南米市場へのバルチップ、北米では果物・野菜用メルタックの現地製造販売に着手します。

萩原工業のものづくりを支える「深化」と「探索」に磨きを掛け、お客様に選ばれる事業運営に取り組んでまいります。



北米で現地製造販売を行うメルタック

マテリアルリサイクル市場における
新たな技術の確立

エンジニアリング事業部門長 飯山 辰彦

当社が推進しているブルーシート水平リサイクルプロジェクト「Re VALUE+」では、エンジニアリング事業部門も設備面で技術開発に携わっています。

これまでエンジニアリング事業部門では、お客様の生産工程でのロス品を再生原料化(PIR)する装置を手掛けていましたが、市場回収品の再生原料化(PCR)については、複合(材質の異なる)素材であることや大量に付着する異物の問題が障壁となり、装置として実用化出来ていませんでした。

2024年10月期は、この大きな2つの課題に「Re VALUE+」を通じて挑戦し、新たな技術である高コンタミ樹脂用フィルター「R-Type」を組み込むことで、製品ロスや市場回収品を再生原料化することに成功しました。

昨今では、様々な業界で水平リサイクルのニーズが高まっています。エンジニアリング事業部門では「R-Type」を組み込んだテストラインを常設し、お客様の再生原料化テストが実施出来るように整備しました。常設設備では、粉碎、押出、濾過(R-Type)、造粒まで一貫したテストが可能で、多くのお客様よりテスト依頼を頂いています。

今後拡大していくマテリアルリサイクル技術の発展のため、エンジニアリング事業部門では実証テストを数多くこなし、お客様のリサイクルニーズを具現化してまいります。

インフラの整備を支える
バルチップの現地生産

BarChip Inc. 代表取締役CEO 萩原 佳明 / 副社長 笹木 真尚

パラグアイ道路市場への参入

当社の南米製造拠点があるパラグアイでは、道路インフラの整備が喫緊の課題となっています。パラグアイは年間を通じて高温多湿で直射日光が強い気候のため、アスファルト舗装の劣化が早く、事故のリスクや頻繁なメンテナンスが発生しています。

この状況を受け、パラグアイではアスファルトに代わる耐久性の高いコンクリート舗装の導入が推進されています。バルチップは南米周辺国のコンクリート舗装プロジェクトで数多くの採用実績を誇り、この実績を活かしてパラグアイの道路市場における販売を創出し、さらなる成長を目指します。



パラグアイの展示会にてバルチップを見学されるパラグアイ大統領

インドネシアでの新市場開拓

世界第4位の人口を誇るインドネシアでは首都移転という大規模プロジェクトが進行中で、これに伴うインフラ整備には巨額の投資が見込まれています。また、インドネシア政府は国内産業の競争力強化を目的とし、公共工事で使用する資材には国産品を優先する方針を掲げています。

当社のインドネシア子会社は、同国内で合成樹脂製コンクリート補強繊維を製造する唯一の企業であり、バルチップの高い性能と品質、さらに「Made in Indonesia」の強みを活かし、インドネシア市場での大規模な拡販に挑戦します。



バルチップを使用して施工されたインドネシアの道路

強い会社となり成長していく

東洋平成ポリマー株式会社 代表取締役社長 柴田 幸久

2024年10月期も、ゼロ視点での改善活動を継続し、且つディフェンス面として、財務面の強化を推し進めてまいりました。

2025年10月期も、ムリ、ムダを徹底的に削り、品質クレームの撲滅を目指し、ゼロ視点での改善活動を継続し、より強い会社としての成長を目指し取り組んでまいります。

お客様と共に開発ロードマップを作り、品質要求の高い新たな市場への挑戦を推し進めてまいります。また、他社が嫌がる製品、環境にやさしい製品への対応で、ベターではなくディファレントな存在を目指し、お客様と共に成長したいと考えています。

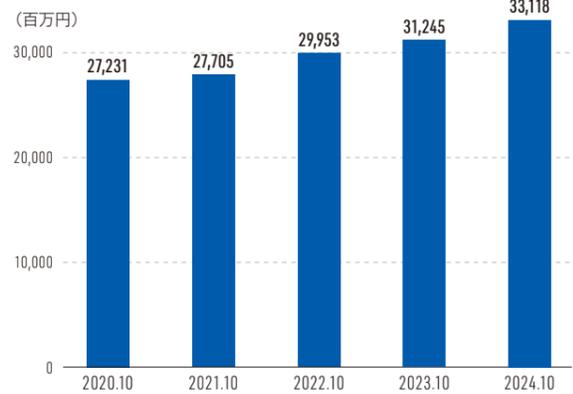
製品群では、医薬用フィルム及び梱包用フィルムを中心に市場の開拓を推進してまいります。



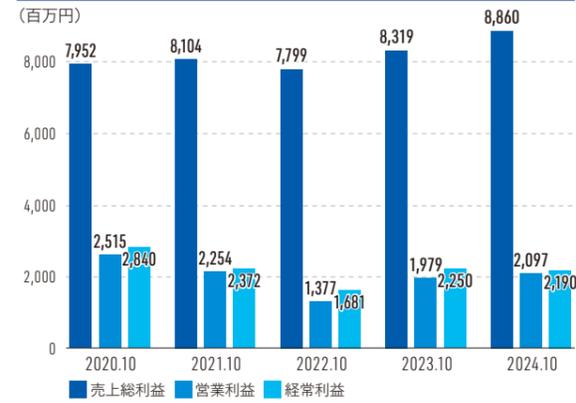
5カ年財務・非財務サマリー

財務

売上高 33,118 (百万円)

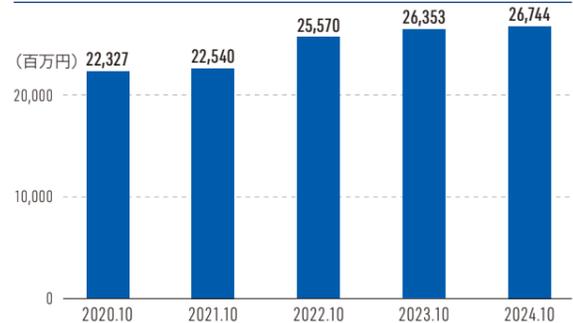


売上総利益 / 営業利益 / 経常利益

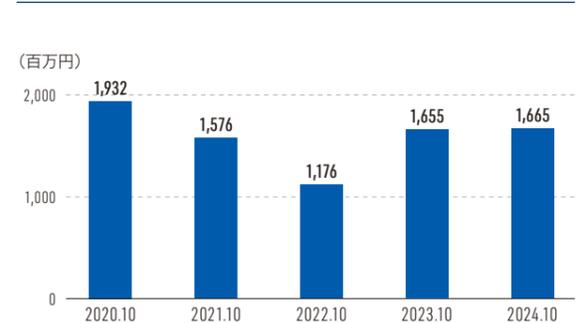


合成樹脂加工製品事業

売上高 26,744 (百万円)

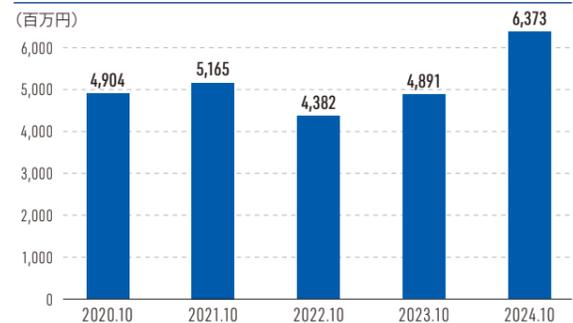


営業利益 1,665 (百万円)

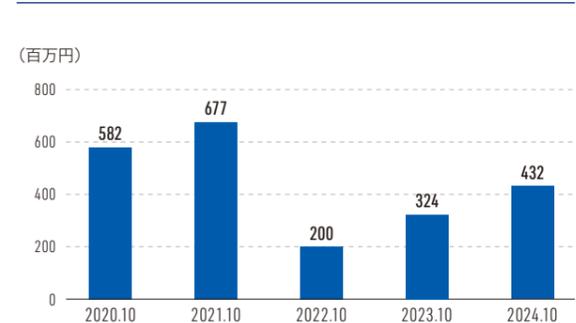


機械製品事業

売上高 6,373 (百万円)



営業利益 432 (百万円)

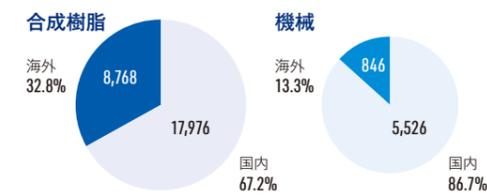


財務

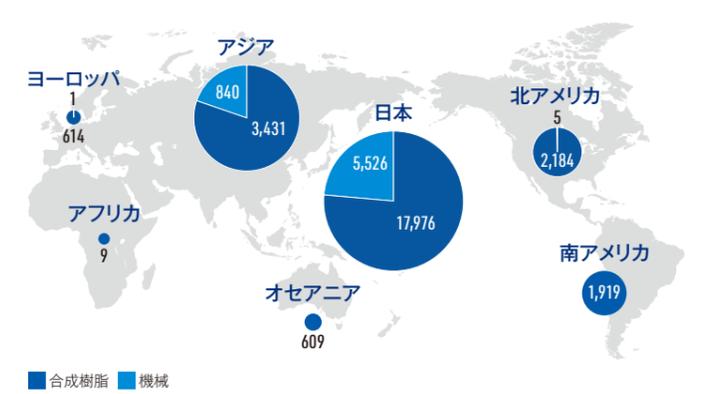
海外売上高 9,615 (百万円)



海外売上比率 29.0%



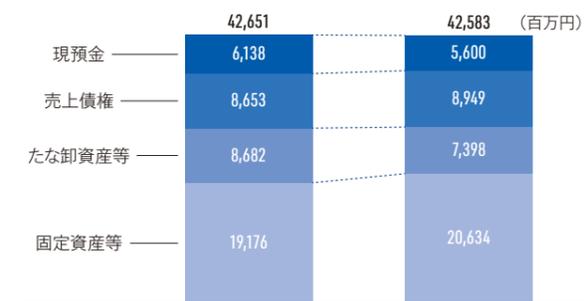
海外売上高



セグメント・子会社

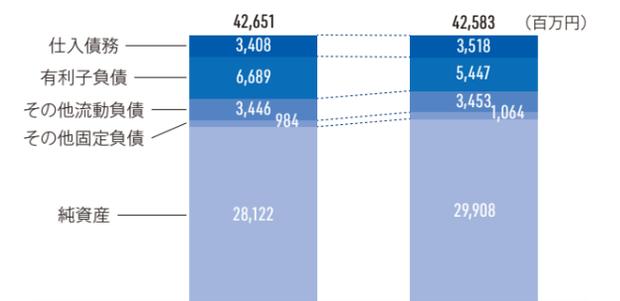
| | 2023/10 | | 2024/10 | | 増減 | | |
|------|----------------------------|--------|---------|--------|-------|-------|------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | |
| 合成樹脂 | 萩原工業 | 15,188 | 534 | 15,266 | 387 | 77 | -146 |
| | PT. HWI | 4,591 | 73 | 4,736 | 135 | 145 | 61 |
| | BarChip Group | 4,476 | 308 | 4,456 | 244 | -20 | -64 |
| | バルチップ | 2,057 | 958 | 1,973 | 831 | -84 | -126 |
| | Hagihara Industries Yguazu | 46 | -80 | 291 | -68 | 245 | 11 |
| | 東洋平成ポリマー | 4,226 | 103 | 4,294 | 108 | 67 | 5 |
| | 計 | 26,353 | 1,655 | 26,744 | 1,665 | 391 | 10 |
| 機械 | 萩原工業 | 4,807 | 272 | 6,262 | 389 | 1,454 | 116 |
| | 萩華機械技術(上海) | 668 | 43 | 794 | 39 | 126 | -3 |
| | 計 | 4,891 | 324 | 6,373 | 432 | 1,481 | 108 |

資産 42,583 (百万円)



総資本回転率 0.74回 → 0.78回

負債・純資産 42,583 (百万円)

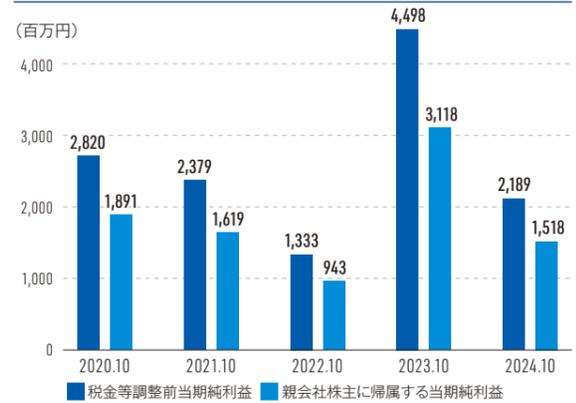


D/Eレシオ 0.5
自己資本比率 65.8% → 68.1%

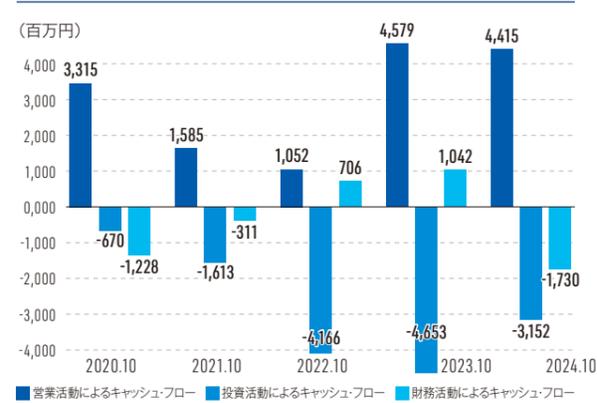
5カ年財務・非財務サマリー

財務

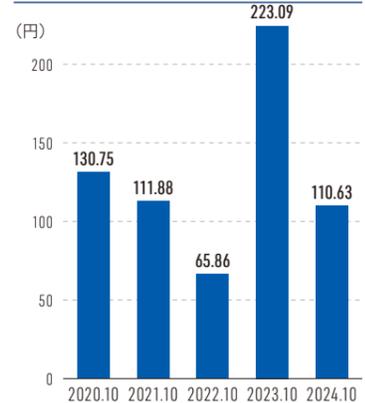
税金等調整前当期純利益 / 親会社株主に帰属する当期純利益



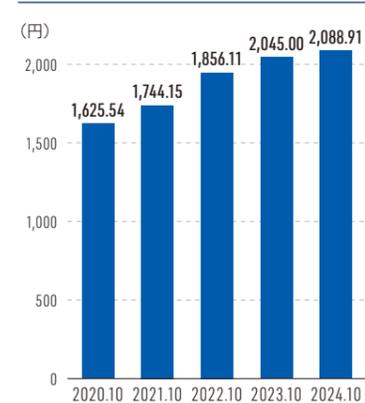
キャッシュ・フロー



1株当たり当期純利益(EPS) 110.63 (円)



1株当たり純資産(BPS) 2,088.91 (円)



1株当たり年間配当金 / 配当性向



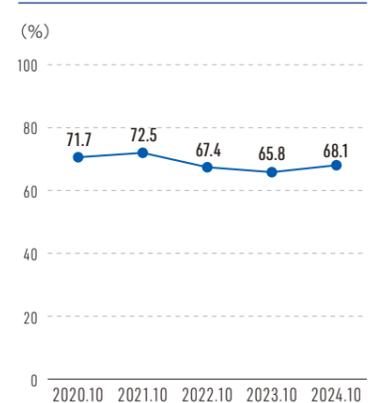
自己資本利益率(ROE) 5.3%



総資産利益率(ROA) 3.6%



自己資本比率 68.1%



非財務

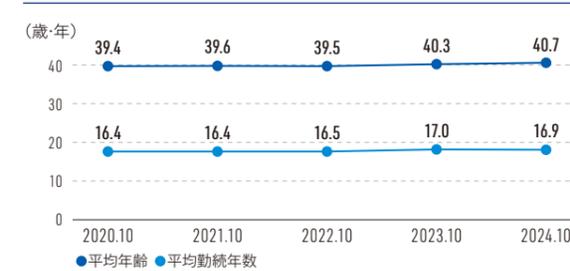
社員数(連結社員数 / 単体社員数) 1,299人



男女別社員数 男性 458人 / 女性 78人



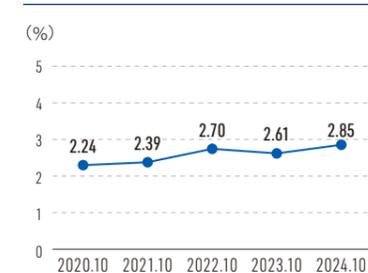
平均年齢 / 平均勤続年数 40.7歳 / 16.9年



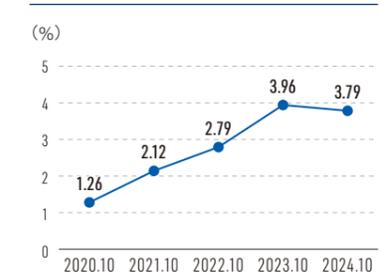
新卒採用者数 23人



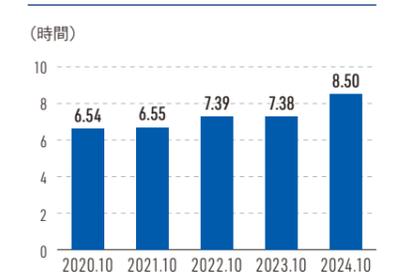
障がい者雇用率 2.85%



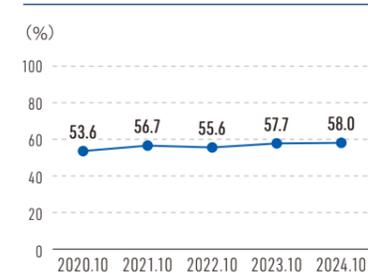
離職率 3.79%



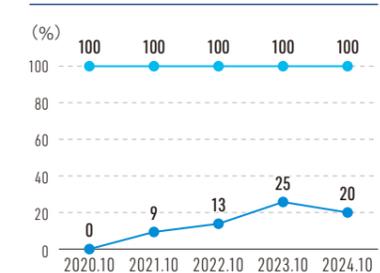
平均月間時間外労働 8.50時間



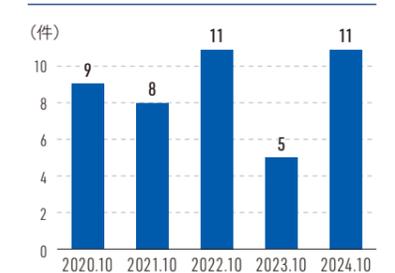
有給休暇取得率 58.0%



育児休暇取得率 男性 20% / 女性 100%



労働災害 11件



国内・海外拠点一覧

萩原工業グループは、世界14カ国に生産・販売拠点を持ち、グローバルに事業を展開しています。



■:販売実績のある国・地域

萩原工業

- 1 本社・工場
- 2 笠岡工場
- 3 里庄工場
- 4 賀陽工場
- 5 物流センター
- 6 東京支店
- 7 大阪営業所
- 8 東海オフィス
- 9 札幌営業所

子会社・海外拠点

- 10 東洋平成ポリマー株式会社 本社・工場
- 11 東洋平成ポリマー株式会社 福島工場
- 12 東洋平成ポリマー株式会社 高知工場
- 13 東洋平成ポリマー株式会社 東京営業所
- 14 東洋平成ポリマー株式会社 大阪営業所
- 15 萩華機械技術(上海)有限公司 (中国/上海市)
- 16 PT.Hagihara Westjava Industries (インドネシア/ジャカルタ)
- 17 Hagihara Industries (Thailand) Co.,Ltd.(タイ/サムットプラカーン県)
- 18 Hagihara Industries Yguazu SRL (パラグアイ/シウダー・デル・エステ)
- 19 Hagihara Industries McAllen Corporation (アメリカ/テキサス)
- 20 BarChip Inc. [バルチップ株式会社] (岡山県倉敷市)
- 21 BarChip Asia (シンガポール)
- 22 BarChip Australia (オーストラリア/ブリスベン)
- 23 BarChip EMEA (アイルランド/ダブリン)
- 24 BarChip Canada (カナダ/ケベック)
- 25 BarChip USA (アメリカ/ノースキャロライナ)
- 26 BarChip Mexico (メキシコ/メキシコシティ)
- 27 BarChip Peru (ペルー/リマ)
- 28 BarChip Brasil (ブラジル/サンパウロ)
- 29 BarChip Chile (チリ/サンティアゴ)

販売実績のある国・地域

| ASIA | EUROPE | AFRICA | MOORISCHAS |
|--|---|--|----------------|
| 日本 中国 韓国 香港 台湾 バングラデシュ ミャンマー ラオス タイ ベトナム フィリピン マレーシア シンガポール インドネシア トルコ | ヨルダン イラン サウジアラビア ドバイ パキスタン インド スリランカ モンゴル | イタリア スペイン ポルトガル ブルガリア ロシア | モーリシャス エジプト |
| NORTH AMERICA | SOUTH AMERICA | OCEANIA | |
| カナダ アメリカ メキシコ | ホンジュラス コスタリカ プエルトリコ セント・マーチン トリニダード・トバゴ | オーストラリア ニュージーランド パプアニューギニア ミクロネシア連邦 ツバル バヌアツ | |
| CENTRAL AMERICA | | チュニジア セネガル ギニア コートジボワール トーゴ ナイジェリア ガボン コンゴ 南アフリカ | |
| グアテマラ | コロンビア エクアドル ペルー ボリビア ブラジル アルゼンチン チリ ウルグアイ パラグアイ | | |

(2024年10月31日現在)

株式情報

(2024年10月31日現在)

| | |
|----------|-------------------|
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 プライム市場 |
| 証券コード | 7856 |
| 事業年度 | 11月1日から翌年10月31日まで |
| 定時株主総会 | 1月 |
| 基準日 | 定時株主総会 10月31日 |
| | 期末配当 10月31日 |
| | 中間配当 4月30日 |
| 発行可能株式総数 | 36,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 14,897,600株 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主数 | 35,686名 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |

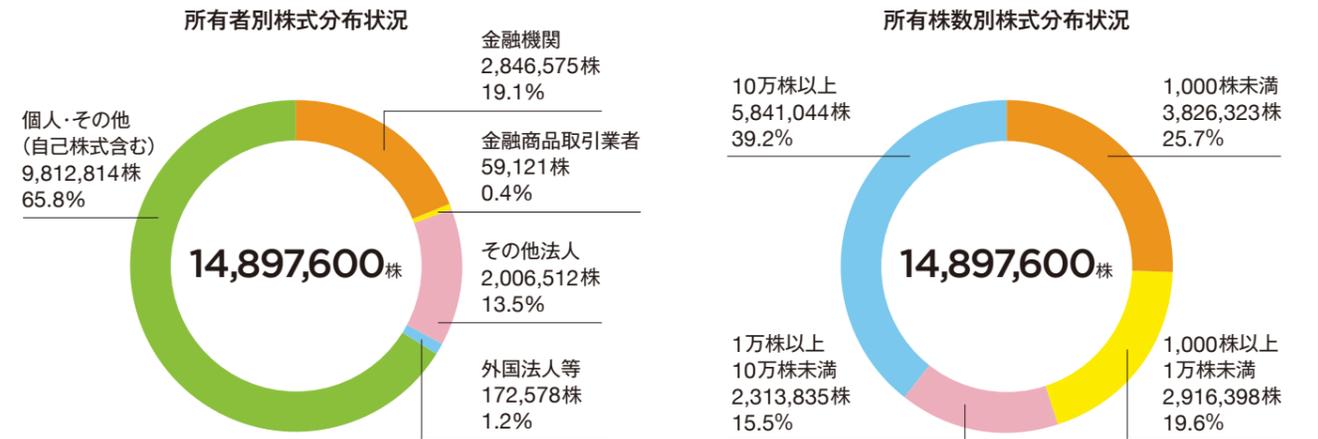
大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|-------------------------|---------|---------|
| 萩原株式会社 | 1,435 | 10.26 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,301 | 9.30 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 611 | 4.37 |
| 萩原工業従業員持株会 | 467 | 3.34 |
| 萩原 邦章 | 424 | 3.03 |
| 萩原 賦一 | 200 | 1.43 |
| 株式会社広島銀行 | 200 | 1.43 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 200 | 1.43 |
| 株式会社商工組合中央金庫 | 100 | 0.71 |
| 福山通運株式会社 | 92 | 0.66 |

(注)1. 当社は自己株式901,098株を所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して算出しております。

株式分布状況

(2024年10月31日現在)



会社概要

(2024年10月31日現在)

| | |
|--------|--|
| 社名 | 萩原工業株式会社(HAGIHARA INDUSTRIES INC.) |
| 本社 | 〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通一丁目4番地 TEL.086-440-0860 FAX.086-440-0869 |
| 代表者 | 代表取締役社長 浅野 和志 |
| 設立 | 1962年(昭和37年)11月29日 |
| 資本金 | 17億78百万円 |
| 社員数 | 1,299名(グループ全体) 536名(単体) |
| 主な事業内容 | ポリエチレン・ポリプロピレンを主原料とした合成樹脂繊維「フラットヤーン」を用いた関連製品、およびフラットヤーン技術に応用したスリッター等、産業機械の製造・販売。 |



萩原工業ウェブサイト
<https://www.hagihara.co.jp/>



<https://www.hagihara.co.jp>